2004
平成16年
4・1
No.761
毎月1日・15日発行

広報 うらやす

人が輝き躍動するまち・浦安
浦安市
発行／浦安市役所
〒279-8501 千葉県浦安市猫実1-1-1
☎047・351・1111（代表）
http://www.city.urayasu.chiba.jp
編集／総務部　広聴広報課

市の人口と世帯　人口=146,952人(+99)　男=74,852人(+25)　女=72,100人(+74)　世帯数=63,223世帯(+15)　　平成16年2月末現在（　）内は前月比

市民保養所「蓼科山荘」
夏休み期間（7月21日～8月31日）の受付開始

高く青く広がる大空からサンサンとふりそそぐ太陽。湖面を波立たせて走るさわやかな風。白樺湖の夏は、まさに高原のすばらしさを満喫できます。さまざまなスポーツ、レジャーも楽しめます。

↑山荘のすぐ近くにある白樺湖。湖畔には白樺の木が群生していて、風を感じながら散歩ができます

▷**対象**　市内在住・在勤・在学の方
▷**費用**　大人1人1泊2550円（宿泊のみ）、5175円（2食付き）
▷**申込方法**　4月15日㈭（必着）までに、往復ハガキ（ハガキの書き方参照）に記入し、〒279-8501浦安市役所地域活動支援課蓼科山荘担当へ郵送。※抽選結果は返信用ハガキでお知らせします
▷**ご注意ください**
○一度に連続して利用できる宿泊数は4泊までです。
○当選された方は、当選ハガキに記載された期間内に地域活動支援課（市役所本庁舎4階）で申請書に記入し、宿泊料をお支払いください。
○利用人数は0歳から含めて利用するすべての人数を記入してください。利用希望日・宿泊日数が明記されていない場合は無効
○抽選後の夏休み期間の空いている日、夏休み期間以外の日の受け付けは、通常どおり利用する日の3カ月前から5日前までの期間に、地域活動支援課で行います。（開庁日の午前9時～午後5時）

ハガキの書き方（往信用裏面）

住所　浦安市●●●●●●●
氏名　●●　●●　●歳
電話番号　047・●●●・●●●●
利用希望日　●月●日から
●月●日まで（●泊●日）
利用人数　●人
利用部屋数　●部屋

蓼科山荘近辺の名所ご案内

●ピラタス蓼科ロープウェイ

標高差466メートルを、7分でむすぶピラタス蓼科ロープウェイ。山頂からは、八ヶ岳連峰、中央アルプス、北アルプスなどの山々が一望できます

●八島ヶ原湿原

約1万2000年の歳月をかけて、今の高層湿原になった国の天然記念物の八島ヶ原湿原。自然を肌で感じられ、開放感に満ちあふれています

●車山高原

標高1925メートルの車山。晴れていれば、頂上から富士山、浅間山などが望めます。夏には数百種類の高山植物が咲きほこります

●上高地

散策路から眺める穂高連峰。蓼科山荘からは少し遠いですが、一見の価値はあります

問　地域活動支援課

市民保養所蓼科山荘に宿泊するバスツアー

時・旅程　Aプラン＝6月15日㈫～16日㈬・浦安市役所→美ヶ原高原（野外美術館などの散策）→山荘泊→上高地（河童橋など散策）→浦安市役所、Bプラン＝6月22日㈫～24日㈭・浦安市役所→川中島古戦場跡（見学）→善光寺→山荘2泊（2日目はフリータイム）→勝沼ワイナリー（工場見学と試飲）→河口湖→宝石の森→浦安市役所　**費用**　Aプラン＝1人1万9000円（1泊2食付宿泊料、交通費、保険料）、Bプラン＝1人2万4500円（2泊4食付宿泊料、交通費、保険料）　**募集人員**　18～25人（18人に満たない場合は中止、多数は抽選）　**申込**　4月23日㈮（必着）までに、往復ハガキ（往信用＝希望プラン・代表者の住所・氏名・年齢・電話番号・利用人数、返信用＝自分のあて名）に記入し、〒279-8501浦安市役所地域活動支援課蓼科山荘担当へ郵送。
※応募は1組1通　**問**　地域活動支援課

こんにちは市長室です。

市で初めて、防災訓練としての「図上訓練」を、1月21日㈫、㈶消防科学総合センターからの日野部長講師を招いて行いました。

私が、図上演習の有効性を知ったのは、昨年の夏、全国の市町村長を対象に開催された「第1回危機管理セミナー」に参加したときです。

当日は、一朝有事の際に、本市の危機管理の要である災害対策本部の構成メンバーになる市の部長たちが、鉛筆と消しゴムを手に訓練に臨みました。

今回の図上訓練は、「状況予測型」と呼ばれるもので、まず、災害の発生状況が、『本日午前11時30分ごろ、地震が発生。体感、周囲の状況から震度6強と思われます。あなたは自席にいます。天気は晴れ。北西の風5メートル』と想定されました。

つぎに、「災害発生から1時間までの間」という前提条件で、設問が3つ出されました。

1問目が「今、周りで何が起きていると思うか、また、そのときに考えられる問題点の予測。」

2問目は「そのとき自分の立場でとるべき行動と意志決定は。」

3問目は「これらの「予測」や「対応」で躊躇（ちゅうちょ）したこと、思った疑問。」です。

続いて、地震発生1時間後の事態として『職員の報告と市民の通報から断片的に状況が判明。市内で複数の火災が発生し延焼中。多くの家屋が倒壊し、死傷者もかなりの数に上る模様。広範囲の停電、断水。依然として余震が続いている。』と想定して、「1時間後から3時間後」まで、同じ設問に取り組みました。

午後は、9年前の阪神淡路大震災の実例から、講師によるかなり具体的なアドバイスを含めた講評と検討会が行われました。

開始前の不安げな雰囲気から、時間が経つにつれ、9年前の惨事を思い出すかのように、イメージをふくらませながら、真剣味を帯びてきたのには驚きました。

特に設問中の疑問点や、躊躇したことなどから、課題や問題点が明確に浮かび上がってきました。

なかには、市の幹部職員としての使命と、家族の安否を心配するという公私の葛藤（かっとう）など切実な問題や、全体を把握していくなかでの優先順位の難しさが明らかになるなど、これらを整理するだけでも防災のマニュアルになることもわかり、予想以上の大きな成果を得て散会しました。

今後、各自治会の自主防災組織での実施を働きかけたいと思っています。

KEY WORD
図上訓練

松崎秀樹